

総合講義「教職実践研究Ⅱ」の実践

楠原 豊 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]・牧原勝志 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]

Actual Performance for "Research into Teaching Practice II"

KUSUHARA Yutaka・MAKIHARA Katsushi

キーワード：学級経営、実践的指導力、学校体験

1 はじめに

総合講義「教職実践研究Ⅱ」は、実践的教職科目群の中の科目である。本学部における実践的教職科目群の4年間の系統的な学びは下記の通りであり、本科目は「関わる」段階として位置付けられている。

コンセプト	科目名等
ふれあう (1年次)	・教職基礎研究 (学校現場の観察)
関わる (2年次)	・教職実践研究Ⅰ (学習指導等) ・教職実践研究Ⅱ (学級経営・生徒指導等) ・参加観察実習
試してみる (3年次)	・事前指導 ・教育実地研究Ⅰ(教育実習) ・事後指導
振り返る (4年次)	・教育実地研究Ⅱ(教育実習) ・教職応用研究(教職実践演習) (教師としての自己課題追究)

「関わる」段階の2年次前期に開講する「教職実践研究Ⅰ」は、授業における発問や板書など具体的な指導方法について学び、指導案(略案)を作成し、板書計画・発問計画とともに「模擬授業」を実施するなど授業づくりの基礎を学ぶことを目的としている。

そして、2年次後期で「学級経営や生徒指導」に関する本科目を実施する。

本稿は、開講後4年目を迎えた本科目のねらいや講義内容、さらには、本科目を通した学生の変容について報告したい。

2 「教職実践研究Ⅱ」の概要

本科目は、教職実践研究Ⅰ(2年次前期)と教育実地研究Ⅰ(3年次)の間に位置付く科目である。「教職基礎研究(1年次)」では、多くの学生が学校、教師に関する多様な視点や課題意識をもつようになる。中でも、「授業の進め方」や「子どもへの接し方」、「学校、学級の環境づくり」などはよくあげられるテーマである。この学習指導、児童生徒理解、人間関係づくり及び学校・学級経営といった内容は教員養成における中核的な部分であり、学校現場の現職教員にとっても学び続けなければならない重要なテーマである。本科目は、1年次の課題意識の持続・発展と3年次の教育実習への関連等を重視し、「学級経営、生徒指導」を中心とした内容で構成している。

(1) 本科目のねらい

1年次の教職基礎研究並びに2年次前期の教職実践研究Ⅰを踏まえ、本科目の学修目標を以下の通り設定した。

- 1 学級経営に関する講義・演習、学校体験及び学級経営案作成演習を通して、学級経営の基本的な考え方や学級担任の役割などを理解することができる。
- 2 学校体験やグループ活動等においてすすんでコミュニケーションを図るとともに、課題追究へ協働的に取り組むことができる。
- 3 少人数の学級や複式学級における学習指導・ICTを活用した遠隔共同学習の取組について学び、離島・へき地教育に関心をもつことができる。

(2) 学級経営に関する基本的知識・技能、態度

本科目では、学級経営に関する基本的な知識及

び技能、態度等を以下のように捉え、「実践的指導力の基礎」とすることにした。

ア 学級経営に関する基本的な知識及び技能 ○ 学級経営の意義・機能、主な内容 ○ 学校・学年経営と学級経営の関連 ○ 学習指導、生徒指導、保健安全指導及び心の教育等と学級経営の関連 ○ 学級経営の観察の観点設定 ○ 学級経営案の内容構成、作成方法等

イ 教員としての態度形成 ○ 学級経営に伴う職責感、使命感 ○ 学校体験時の教員としての言動、接遇等 ○ グループ課題の追究過程における協働性
--

ウ 離島・へき地教育振興への関心 ○ 小規模、複式学級における学級経営の工夫 ○ 離島・へき地の学校におけるICTを活用した授業改善及び遠隔共同学習の取組

ウは本県の地理的特性に伴う離島・へき地教育振興への関心を高める点から加えたものである。

(3) 本講義で目指す資質能力

これまでの考え方にに基づき、本科目で目指す資質能力を下記のように構成した。

ア 学級経営に関する講義、演習及び学校体験等で得られた知見を基に、小・中学校の学級担任の立場で「学級経営案」を作成し、趣旨説明及び質疑応答等を的確に行うことができる。

イ 少人数、複式学級での学習指導や、情報技術を活用した遠隔教育システム等の取組事例について学び、理解を深めることができる。

ウ 学校体験や演習等において、教師としての立場を自覚して行動するとともに、協働性を発揮し学び合うことができる。

(4) 実施にあたって

- 授業 講義、演習、学校体験
学校体験は日置市内の小規模小学校8校、中学校1校で終日実施（観察、交流、講話等）。
- 指導者 教育学部附属教育実践総合センター教員（県教委招聘教員4、大学教員協力者1）
- 受講生 主に2年生（3、4年生も受講可）

(5) 指導計画

○ 各ステップの内容等

三段階	内 容
ステップ1 (1回～4回)	学級経営の基本的理解
ステップ2 (5回～10回)	学校現場での体験観察、振り返り活動－発表・討論
ステップ3 (11回～15回)	学級経営案作成－発表

○ 各回の内容等

回	講義・演習等の主な内容
1	オリエンテーション(目標・授業計画・評価)自己診断① 学級経営の基本的な考え方【講義】 (学級経営の機能・視点、学級経営案の概要、学校経営案との関係、学級経営、学級事務、児童生徒側の観点等)
2	学習指導と学級経営【講義】 (学級づくりと学習指導、学習指導における学級経営上の配慮事項、学級経営案の中の学習指導の具体策) 複式学級における学習指導【演習】 (複式教育と学級経営、授業VTR視聴)
3	心の教育・保健安全指導と学級経営【講義】 (生きる力と心の教育、心の教育のキーワード・推進計画と具体策、保健安全指導のポイント、健康安全教育的具体策)
4	生徒指導と学級経営【講義】 (生徒指導の観点からみた学級経営、ソーシャルスキルトレーニング(演習)、自己指導能力を育成する学級経営、学級経営の柱の構想)
5	学校体験に向けた準備【グループ活動】 (体験日程の確認、観察の観点、具体的対応が必要な場面の想定と検討)
6	学校体験(1日)【フィールドワーク】 学級経営の観察、校長講話、担任との懇談、児童生徒との交流
7	(学級経営を中心とした教育活動の観察、実地体験、講話等－「ワークシート」記録)

8 9	学校体験の省察、発表資料作成 【グループ活動】 (記録整理、構造化、考察、発表資料作成)
10	学校体験の成果発表及びグループ討議 【討議】 (成果発表、討議、講話)
11	離島・へき地における情報教育の活用【講義】 (情報教育技術を活用した教育方法－遠隔教育システム、デジタルコンテンツの活用)
12 13	学級経営案作成【演習】 (学校・学年経営案の解釈、経営案作成)
14	学級PTAにおける学級経営案の発表 【演習】 (学級経営案発表、討議、指導助言)
15	本講義のまとめ、自己診断②

- ・ 児童の心や成長につながる。
- ・ 勉強や友だちとのかかわりを通して成長していくこと。
- ・ 学習指導や生活指導を通して学級のあり方を考え、実践すること。

- 第1回の講義は、学級経営の基本的な考え方(学級経営の機能及び視点、学級経営の展開(年間)、教室環境づくり、学級事務、保護者との連携など)、学級経営に関する全体像を把握させる講義を行った。
- 第2回の講義は、学習指導を進める上での学級経営上の配慮事項、学級経営案でよく取り上げられる具体策の例、複式学級における指導方法の工夫などを中心とした講義を行った。
- 第3回の講義は、生きる力の育成からみわた心の教育・保健安全、学級の支持的風土の形成、危機管理能力の育成などを中心に講義を行った。
- 第4回の講義は、SST(ソーシャルスキルトレーニング)演習、生徒指導の事例をもとにした演習、生徒指導の機能を生かした学級経営の在り方などを中心とした講義を行った。SSTの演習では学生たちが互いに体験し合い、好ましい人間関係の構築に必要な態度、接し方等を学ぶことができた。



以上のステップ1終了時に学級経営について事前と同じアンケートを実施した。

「学級経営とはどのようなことか？」

- ・ 児童の自己指導力をはぐくむためには自己決定の場や自己存在感を与えること、人間的触れ合いを基盤とする事が大切だと分かった。
- ・ はじめは学級経営と聞いてただ漠然とクラスを運営するイメージしかなかったが、教室内の雰囲気、支持的風土、自己指導力など本当にたくさんの要素をもっていることがわかった。
- ・ 学級経営において一人一人の子どもとの関わりが大切だということが分かった。一人一人とのかかわりが積み重なって一つの学級が

3 「教職実践研究Ⅱ」の実践

本科目の学修目標や指導計画に基づいた平成22年度の取組について以下に述べていきたい。

(1) ステップ1

オリエンテーションと自己診断を行った後、学級経営の基礎的理解について4回の講義を行った。

下記が学生の事前の自己診断の結果(一部抜粋)である。(診断は4段階評価)

項目	度数平均
2③ア 学級経営の理解	1.5
2③イ 学級経営の指導方針	1.75
2③ウ 集団活動の指導	2
2③エ 学級経営に関わる説明責任	1.75

他の項目と比較し、上記の「学級経営の理解」や「指導方針、説明責任」の度数平均が低いことがわかる。(詳細は添付資料参照)

なお、講義実施前の学生のアンケートによる「学級経営とはどのようなことか？」の記述内容は以下の通りであった。学級経営について表面的で漠然とした捉え方の記述が多い。

- ・ 児童生徒をまとめること。
- ・ 子どもたち一人一人のもつ良さを伸ばすこと。

成り立つのだと思う。

オリエンテーション時の内容と比較し、「自己存在感」や「支持的風土」など学級経営に必要な基礎的な要素や内容が表出している。学級経営についての認識を深めていることがうかがえる。

(2) ステップ2

ア 学校体験における観察の観点設定

学級経営の観察の観点を設定する演習を1時間行った。以下の表に学生たちが設定した観点をまとめた。

学生たちは、教師や児童の様子を学級経営の視点から観察し、自分のもつ知識と関係付けながら学びを深めようとしていることがわかる。

具体的な観点
<p>【学級経営について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校経営・学級経営の目標と重点 ・ 基本的な生活習慣や学習習慣の育成 ・ 特別な支援が必要な児童への配慮 ・ 複式学級の指導と工夫 ・ 保護者や地域との連携 <p>【授業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の話を聞く子どもの態度 ・ 授業での注目のさせ方 ・ 子どもの発表（ルール、発表話形） ・ 複式授業におけるガイド学習の様子 ・ 学習時の雰囲気づくり（誤答の生かし方・発表を聞き合う態度） ・ 子どもの発表後の教師の対応 <p>【休み時間等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の友人関係と教師の関わり方 ・ 子ども達の異学年との関わり ・ けんかなどトラブルが起きたときの対応 ・ 給食や作業の指導と留意事項 ・ 健康や安全面の指導 <p>【学級設営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級内の設営物の観察と工夫 (学級目標・個人目標、係活動、学級だより等) ・ 子ども達の発達段階による違い <p>【校庭の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具の種類・活用状況 ・ 校庭の植樹や学級園等の植物名札

イ 学校体験

学校体験は各学校の教育活動に即して行われる。下記は住吉小学校の例である。

時間	教育活動
9:20	学校到着・挨拶
10:00~10:45	「校長講話」 ・ 学校経営と特色ある教育活動、地域の特性、教育観など
10:45~10:55	教職員への挨拶（自己紹介）
10:55~11:40	3校時「授業の観察1」 1~4年（各教科）
11:50~12:35	4校時「授業の観察2」 5・6年（家庭科）
12:35~13:15	給食指導（指導補助）
13:15~14:00	休憩時間（児童との交流）
15:00~14:15	清掃指導（指導補助）
14:20~15:05	5校時「授業の観察3」 3, 4年（算数科：研究授業）
15:05~15:15	帰りの会参観
15:15~16:00	6校時「教頭講話」 ・ 学級経営、学級経営案について ・ 記録整理
16:00~16:15	休憩時間
16:15~16:45	担任等との懇談（質疑含む） 学校職員へのお礼、退庁



【学校体験活動の一場面】

以下に、一人の学生の記録を基に観察内容を紹介する。この学生は、「①学級経営案②教師の子ども達へのかかわり方③複式学級の授業」についての3点を大きな観点に設定して観察している。

項目	主な内容
①学級経営案について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営案の説明を聞く。 ○ 学級目標（児童向け） 「笑顔であいさつ 何事にもあきらめずにチャレンジ どんな時でも助け合う3・4年学級」

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営目標は学校教育目標をもとに学級の実態に応じたものになっている。 ○ 学級目標を達成するための具体策が分かりやすく示されている。 (例)家庭学習は1日40分(3年), 50分(4年)机に向かう。 ○ 授業の約束 名前を呼ばれたら「はい」の返事。 発表するときは理由もつける。 ○ 保護者との連携が大事である。 ○ 週報を作成している。
②教師の子ども達へのかかわり方について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども達は一人一人年齢や学年に関係なく(兄弟でも)「〇〇さん」と呼び合っていた。一人一人を尊重していると感じた。 ○ 一人一人を見つめやすく関わりやすいことが小規模校の良さだと思う。
③複式学級の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複式学級の授業はとても洗練されていた。5, 6年の授業はガイド役の児童がその役割をしっかり果たしていた。 ○ 教師はあまり口を出さず、ガイドが中心に進めていたことから低学年からの積み重ねが子どもを自立させていると思った。

上記の記録では、配属学級の学級経営や子どもとの関わり方、複式の授業が観察の視点となっている。学生は、教師の声かけや児童同士のやりとり、授業の工夫など、日常的な場面をよく見ており、そのことを自分の知り得る学級経営の知識や理解に関連付ようとしている。このような事実の把握や理解は学校体験でなければできないと考えられる。

ウ 発表討論会

学校体験後にそれぞれの観察の観点に即して学校体験を省察させ、学んだことを発表し合う時間を設定した。学生達は、観察した学級経営のポイントを自分のことばで発表し、それをもとに討論をさせた。「学校の目標や目指すものを十分理解し・・・」や「児童は地域や保護者などたくさんの人と関わっていく・・・」など、学級経営を学校経営目標との関連で考えたり、地域や保護者を視

点に入れたりするなど、幅広い視点で学級経営を捉えることができるようになってきている。また、討論会では、学校目標と学級目標がつながっていることやそれぞれの学校の特色(小規模・地域の特性)を踏まえた学校目標ができていないことに気付いたなどの意見が出された。

さらに引き続いて、「学級経営とは何をどうすることか分かってきたことや、考えが変わってきたことについて述べよ」という内容を記述させた。

その主な内容は次の通りである。

- ・ 児童のよさを伸ばし、学校の全児童が成長しやすくしていくことが学級経営だと考えるようになった。それは児童は地域や保護者などたくさんの人と関わっていくからです。掲示物等環境面も整える必要があると思いました。
- ・ 学級経営とは、担任がどうしたいかという方針だけでなく学校全体の目標や校訓なども踏まえてクラス運営を行うことだと思う。ただ、何となく行っているのではなく、明確な意図や思いが必ずあるということがこの学校体験で分かった。
- ・ 学級経営とは、学校全体としても目指す教師像及び目指す生徒を育てるために必要なものを学級単位で担任が考えていくことだと思う。
- ・ 学校の目標、目指すものを十分理解した上でその学級の子どもたちに合った目標を立てて学級を運営していくこと。学級経営をする上で大切なことは教師が一人一人のよさを見つけ、互いに補いあって一つの学級を作ることである。教師はその中心となるクラスのまとめ役である。

エ 学校体験の自己評価について

学校体験の取組についての自己評価のコメントは以下の通りであった。

- ・ 目標としていた、学級環境や小規模校での授業の良い点等の理解はできた。しかし、学校教育目標を達成するために様々な場面で教師がどのようにはたらきかけているのかもつ

と観察したかった。

- これまで見てきた大規模校と比較して観察することができた。教師と子どものかかわりについては深く観察することができなかつたので、もっと視点を絞って観察できたらよかった。
- この体験活動で知り得たことはとても大きかった。また機会があればもっと視点を絞って観察したい。
- 給食の時間等を通して交流を深めることができた。昼休み時間に全学年の子ども達と交流するため校庭で遊びを通して触れあいました。もっと自分から積極的に声かけできたらよかったと思いました。

事前に観察の視点を準備し、学校体験を実施したが、もっと観察の視点を絞る必要があったとのコメントが見られた。このことから、さらに具体的な観察場面を想定し、重点事項を絞り込ませるなど事前の授業における指導の改善が必要であると考える。

(3) ステップ3

○ 第11回は、「少人数の学級や複式学級における学習指導・ICTを活用した遠隔共同学習の取組について学び、離島・へき地教育に関心をもつことができる。」ことを目標に「離島・へき地の学校におけるICTの活用法」、「デジタルコンテンツを使った指導の事例」、「遠隔協同学習の事例」について学んだ。学生は、学習指導におけるデジタルコンテンツの有効性や、複式学級における指導の工夫、遠隔協同学習など有効性や活用への意欲の高さが感じられた。



○ 第12～14回は、学級経営案作成演習を行った。まず、架空の「青空小学校」の学校・学年経営案と1～6年生までの学級の実態を記述した資料を配布・説明し、それらの中から学生が担当学級を選定して学級経営案を作成するという順序で講義を進めた。学生達は、基本的に学校体験の配置学級を想定し学年を決定していた。この学習経営案の作成や発表、討議に3時

間を充てた。

平成22年度学校経営案

鹿児島市立青空小学校

1 校区の概要

本校区は、鹿児島市の北西部に位置し、〇〇山麓に接し〇〇川がたおやかに流れるなど、自然豊かな農山村である。近年、隣市郊外のベッドタウンとして住宅地造成や道路開発などが進みつつあり、交通量の多くなっている所も見られる。校区内には、役場や公民館、福祉センター、医療機関、JA、商店などがあり、〇〇地域の文化・経済の中心をなす。地域住民及び保護者は、教育への関心が高く、PTA活動もさかんである。児童は素直で明るく、友だちと仲良く過ごし、活動的な子どもが多い。

2 児童数

年	1年		2年		3年		4年		5年		6年		部	計
	1組	2組	1組	2組	1組	2組	1組	2組	1組	2組	1組	2組		
男	12	11	13	12	14	13	12	12	11	12	12	11	1	146
子					(1)									
女	12	12	13	13	13	13	12	11	12	11	13	13	2	150
子			(1)								(1)			
計	24	23	26	25	27	26	24	23	23	23	25	24	3	296
			(1)		(1)						(1)			

() は特別支援学級児童の別掲

3 学校教育目標

思いやりの心をもち、自ら考え、たくましく生きぬく力をもつ「青空小の子ども」を育てる。

【めざす子どもの姿】

思いやりの心をもった子ども
自分の力で考えぬく子ども 強い心と体をもった子ども

4 学校経営方針

上記の目標を効果的に達成するため、以下の事項及び課題を共通理解し、一丸となって取り組む。

- ① 心豊かでたくましく生きる力を育む教育課程を編成し、知・徳・体の調和のとれた教育活動を推進する。
- ② 全教育活動の基盤に、人権尊重、生命尊重の精神をすて取り組む。
- ③ 家庭・地域との連携を大切に、地域に根ざした教育活動を推進する。
- ④ 「環境が人をつくる」を合言葉に、よりよい教育環境づくりを努める。

本年度の課題

- ◎「確かな学力の定着」⇒学力調査の平均点5点アップ
- ◎「心の教育の推進」⇒心のふれあいを大切にした学級経営
- ◎「生徒指導の充実」⇒基本的な生活習慣の定着
- ◎「保健・安全指導の充実」⇒体力の向上、交通安全指導の徹底
- ◎「教育環境の充実」⇒心を育てる学級園、一人一鉢栽培活動

学校教育目標と各学年経営

＜学校教育目標＞

豊かな心をもち、たくましく生きぬく力をもつ「青空小の子ども」を育てる。

思いやりの心をもった子ども 自分の力で考えぬく子ども 強い心と体をもった子ども

↓

【各学年経営】

学年	1年	2年	3年
学年教育目標	明るく元気にあいさつや返事をし、まじきを守って楽しく生活する子どもを育てる。	気持ちよいあいさつや返事をし、誰にでも親切に、進んで生活する子どもを育てる。	思いやりをもち、友だちと助け合い、楽しい学級生活しようとする子どもを育てる。
学年経営の重点	○基本的な学習や生活のまじり ○担任や友だちとの関係づくり ○生活・基本的な習慣の育成 ○生活・基本的な習慣の育成	○小学校生活のまじりとけじめ ○しっぺり関わり、学ぶ学習態度 ○読書・基本的な習慣の反復指導 ○生活・基本的な習慣の育成	○思いやりやマナーのある態度 ○礼儀正しい挨拶、規律正しい生活 ○学力の育成、態度の育成 ○自分に合った体力づくりの取組
学年で育てる子ども	◆あいさつや返事を元気にする ◆しっぺり関わり、進んで発表する ◆めあてをもち、元気よく運動する	◆気持ちよく挨拶や返事ができる ◆よく聞き、よく発表で発表する ◆めあてをもち、元気よく運動する	◆思いやりやマナーのある態度 ◆友だちと仲よく助け合う ◆よく聞き、よく発表、進んで発表する ◆めあてをもち、進んで運動する
学習指導	・体を向けて話を聞く態度の育成 ・反復練習による基礎基本の定着 ・教科書の音読、読書の奨励	・最後まで聞き取る態度の育成 ・反復練習による基礎基本の定着 ・教科書の音読、読書の奨励	・考えをもち、話し合う活動の重視 ・小テストによる定着と個別指導 ・復習を主とした家庭学習習慣
道徳指導	・重点～思いやり、親切、正直さ ・明るく、助け合う学級づくり ・学級園、一人一鉢栽培の取組 ・豊かな心を育む教室、廊下設置	・重点～思いやり、親切、生命尊重 ・明るく、助け合う学級づくり ・学級園、一人一鉢栽培の取組 ・豊かな心を育む教室、廊下設置	・重点～思いやり、親切、礼儀 ・五いを理解し助け合う学級づくり ・学級園、一人一鉢栽培の取組 ・豊かな心を育む教室、廊下設置
特別活動	・係の仕事への取組、協力 ・問題解決のための話し合い態度 ・みんなと遊ぶ集会活動の充実	・係活動に意んで取り組む態度 ・問題解決の話し合い態度 ・協力してつくる集会活動の充実	・係活動の役割、積極的な取組 ・生活向きの問題解決 ・1、2年生と遊ぶ集会活動の充実
生徒指導	・元気な挨拶、返事、言葉遣い ・チャームの合図、生活のけじめ ・定期相談、随時相談の活用 ・身の周りの整理整頓	・気持ちよく挨拶、返事、言葉遣い ・チャームの合図、生活のけじめ ・定期相談、随時相談の活用 ・身の周りの整理整頓	・丁寧な言葉遣い、呼びかけ、礼儀 ・生活のけじめ、動と静の態度 ・定期相談の活用、いじめの防止
保健安全指導	・正しい道路歩行、水難事故防止 ・手洗いやうがい、歯磨き指導徹底 ・離れた日の戸外遊び、調読び	・正しい道路歩行、水難事故防止 ・虫歯予防と歯磨き指導の徹底 ・安全な遊具遊び、調読びの指導	・正しい道路歩行、水難事故防止 ・学級園遊び記録への挑戦 ・めあてに即した体力づくりの取組
環境教育	・あきさがお栽培 ・季節さがし(夏・秋・冬) ・どうぶつあそぼう(うさぎ)	・昆虫あそび、お魚博物館 ・観察づくり ・花あそび、お魚博物館	・町探検、〇〇川で遊ぶ ・昔の遊びを調べよう ・農家の仕事を調べよう
人間関係教育	・誰とでも仲よくあそぶ ・周りの人に感謝にする	・明るく、進んで仲よくする ・周りの人に感謝にする	・取に頼まし合い助け合う ・いじめを許さない学習気づくり
家庭と学校との連携	・学級PTAの活性化 ・連絡帳、生活ノート、学級だより	・学級PTAの活性化 ・生活ノート、学級だよりの活用	・学級PTAの活性化 ・生活ノート、学級だよりの活用

【青空小学校(架空)の学校・学年経営案抜粋】

○ 第15回は「学級経営案発表会」を行った。昨年度より改善した内容は発表場面を最初の学級PTAの場面と設定したことである。具体的には、4月の第1回学級PTA（保護者会）で保護者に自分の学級経営案を説明するという想定で行った。学生は作成した学級経営案を説明するために、分かりやすい説明の仕方や話し方をそれぞれ工夫していた。残りの学生は保護者役となり、質疑をさせることで、それぞれの学級経営に関する内容を深めることができた。

以下の学級経営案は、ある学生が作成したものである。この学生は4学年を選択した。学校教育目標をもとに学級の実態から学級経営目標を設定している。また、自分の学級に対する思いを自分の言葉で学級経営方針や重点項目に設定している。この学級の実態としては「楽しい学級活動を送るための話し合い活動や学級集団など計画し実践できる。仲間意識が強くなり運動会などに向けて協力し学級対抗意識に燃える。持ち物隠し、心ない言葉、いたずら書きなど人の気持ちを考えない言動が見られる」と設定していた。

これを受けて、この学生は学級目標を「心キラキラ！やさしさあふれる4の1」と設定し、学級経営の具体策の一つとして、「相手の気持ちを考え、やさしい言葉がけができる子どもを育てる。」と設定した。人間関係づくりを重視し、運動会等の学校行事、人権同和教育に基づく集団活動等を通して、役割意識や相互の協力の大切さを理解させようとしている。また、保健安全指導では体力カードを用いた目標設定、学級縄跳び記録への挑戦、早寝早起き朝ご飯の徹底など、基礎的な要素として把握できていることが分かる。

例であげた学生以外の学級経営案も、基本的な知識等や学校体験から学んだことを生かしたものとなっていた。ただ、子どもの実態の捉え方や具体策にいたる内容の整合性を考えると、まだ十分ではないもあった。しかし、ほとんどの学生の学級経営案に共通していることは、学校経営・学年経営とのつながりを考慮していること、学級担任という当事者意識が感じられること、そして、学級を預かる担任として、学級の実態に応じて問題をどう解決するかというイメージを持ちながら具

体策を考えていることなどがあげられる。本科目での学級経営案作成という演習を通して学級経営に関する基本的知識・技能、態度について学ぶことができたと考える。

第4学年1組 学級経営案
男子12人、女子12人 計24人

【学校教育目標】

思いやりの心もち、自ら考え、たくましく生きぬく力をもつ「青空小の子ども」を育てる

↓

【第4学年の経営】

◎ 学年教育目標
相手の気持ちを考え、友だちと助け合い、よりよい生活をつくらうとする子どもを育てる

◎ 学年経営の重点

- ・ 思いやりやマナーのある態度
- ・ 礼儀正しい挨拶、規律正しい生活
- ・ 学び方の方法、態度の指導
- ・ 友だちと進んで体を鍛える

学年で育てる子どもの姿

↓

【学級経営方針、重点課題など】

- 相手の気持ちを考え、優しい言葉がけができる子どもを育てる
- 生物を大切にし、掃除に真剣に取り組める子どもを育てる
- 一人一人が自分の考えもち、学習のめあてに向かって進んで学習できる
- 体力づくりへの意識を高める（学級と個人のめあてに向かって取り組む）

【学級の実態】

- 楽しい学級活動を送るための話し合いや学級集団などを計画し実践できる。
- 仲間意識が強くなり、運動会などに向けて協力し学級対抗意識に燃える。
- 持ち物隠し、心ない言葉、いたずら書きなど人の気持ちを考えない言動が見られる。

↓

【学級目標】

心キラキラ！やさしさあふれる4の1

↓

【学級経営の具体策】

① 相手の気持ちを考え、やさしい言葉がけができる子どもを育てる

② 生物を大切にし、掃除に真剣に取り組める子どもを育てる

●人権同和教育

- ・ 相手の気持ちを考えた言葉遣いや行動をとる
- ・ 友達や生物にやさしい心で接し、やさしい言葉がけができるクラス作り

●道徳指導

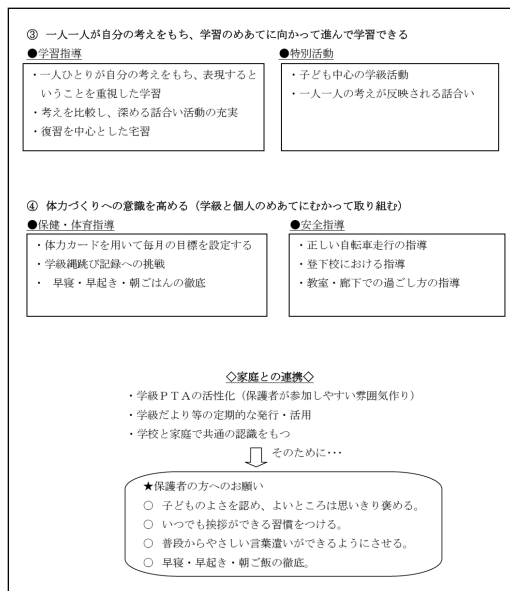
- ・ 言葉遣いの指導
- ・ 読書の習慣（本の紹介タイムを設ける）
- ・ 担任との心紙
- ・ 各教科での道徳教育の重視

●生徒指導

- ・ 丁寧でやさしい言葉遣いの指導
- ・ 気持ちのよいあいさつや返事
- ・ 身の回りの整理整頓、物を大切にすることを指導
- ・ 感謝の気持ちをもつ（「ありがとう」が言えるクラス）

●環境教育

- ・ ゴミの分別、リサイクル活動の推進
- ・ 役割分担のある掃除活動
- ・ 掃除活動での友達の良いところを紹介
- ・ 農業体験活動
- ・ 学級園



4 事前・事後の変容（自己診断から）

本科目では「教師としての資質能力に関する自己診断（実践研究Ⅱ）」（添付資料）により、オリエンテーション時（事前）と講義まとめ後（事後）の2回にわたり自己診断の変容を調査し、その結果をまとめた。（添付資料）

(1) 自己診断項目の度数の変容について

自己診断項目は「1 職務遂行，資質能力の向上」，「2 児童生徒理解，学級経営」，「3 教科等の指導力」，「4 職責感，教育的愛情」の4つに区分されており，各々4段階評価で自己診断するようになっている。4区分中で，度数平均が最も増加したものは「3 教科等の指導力」の0.96ポイントで，次が「2 児童生徒理解，学級経営」の0.95ポイントであった。学校体験や学級経営案を作成する段階で，教科等の指導や少人数複式指導などの学びが深まったものと考えられる。

また，具体的項目は29項目あり，その中で事前，事後の度数平均が1ポイント以上増加した項目が10項目あり，その中でも2ポイント上昇した項目が2項目あった。最も変容が大きかった項目は「2③ア学級経営の理解」で2.5ポイント，次は「2③イ指導方針」の2ポイントであった。本科目の中心的な内容項目であり学級経営案作成に関わる授業や討議や発表を通して学級経営の基礎

的な学びが深まったものと考えられる。

次に変容の大きかった項目は「2③ウ集団活動の指導」と「3②イ機器使用」の1.5ポイントであった。学級経営の素地として必要な集団活動の意義や学校体験，学生の発表場面での教育機器の活用等がその理由と考えられる。

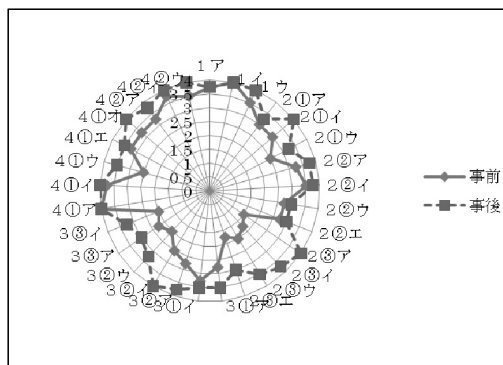
「2③エ説明責任」が1.3ポイントの変容があった。今日的な課題から開かれた学校づくりのためには学校や学級の状況を保護者や地域に説明する必要があることに気付くことができたと考えられる。

「3②ウ少人数・複式学習指導」が1.3ポイントの変容があった。日置市との連携で日置市内の複式学級のある学校を中心に学校体験することで，複式学習指導（わたりやずらしなど）を直接観察することができたことがその理由と考えられる。

「3③ウ個への対応」が1.3ポイントの変容があった。学習指導の基本は児童一人一人への対応であり，上述した複式学習指導を学べた意義は大きい。

その他，「2②ア：コミュニケーション能力」が0.8ポイント，「2②イ信頼関係」が0.5ポイント変容している。平成21年度の結果では，それほど変容が見られなかった項目であるが，随時グループ活動や意見交換会，諸発表会を通してある程度の変容が見られた。

また，変容が見られなかった項目もある。「1ア課題把握」や「1イ修正」，「4①ア専門職の自覚」は事前，事後でその差がなかった。事前の自己診断で既に高い数値が見られたことも原因の一つと思われるが，同じ評価でも質的変容があったことが予想される。



(2) 「学級経営」に関する記述の変容について
最終講義を終えて、学生に「学級経営とは何を
どうすることか」との設問を課した。以下はその
記述内容の一部である。

- ・ 学級経営とは、学校目標や学年目標を達成
することを視野に入れて、具体的に子どもに
めざす力を身に付けさせることである。
- ・ 自分の思いをしっかりとち、子どもを守り
育てていくために学校・家庭・地域と協力作
してクラスを作ること。
- ・ 生徒指導や学習指導など学級に関すること
を全て行うこと。

各ステップの段階で「学級経営とは何か説明せよ」という共通の設問を課した。講義の中では学級経営の定義について、「学校教育目標の達成のために、学習指導や生徒指導等を総合化し、学級内の人間関係を促すほか、学級の環境整備を行うなどの計画的・継続的な教育活動」と説明している。ここでは学生に自分の理解を文章化させることにより変容を把握することをねらいとした。

これまで、学級経営について漠然と捉えていた学生が、「学級」のあり方に着目し、学級経営の目標達成に向けて、学習指導や生徒指導等を「総合化」して捉えようとしていることは、学級経営の基本的な知識及び技能、態度等の要素の中でも極めて重要な部分であると考えている。

5 成果及び課題

今回の実践を通した成果並びに課題は下記の通りである。

[成果]

- 学校体験活動を通して、学級経営が学校経営と関連していることや、小規模校の学級経営と学習指導の関連について学ぶことができた。
- 学級経営に関する基本的な知識及び技能、態度等を基に3ステップの指導過程により実践することで、学級経営に関する基本的理解及び認識の深化について自己評価に見られる成果を得ることができた。
- 作成した学級経営案を模擬学級PTAで保護者の前で説明するという場を設定することでよ

り実践的な学びとなった。

[課題]

- 学級経営を様々な観点から学び、学生の視野は広がったと考えるが、より実践的な場での活用について検討したい。
- 実践的教職科目群及び他教職科目の内容的関連を精査し、本科目の位置付け及び指導内容を検討したい。

6 おわりに

学級担任の職務は、教育実地研究（教育実習）など教員養成段階で十分経験できるものではなく、その役割等は実際の学校現場で経験を積みながら学んでいくべきことが多々ある。しかし、一方では初任者教員にも、年度初めから学級の子もたちとの円滑な人間関係を築いたり、学級集団づくりを営んだりする学級経営力が、これまで以上に期待されるようになってきていることも事実である。今後も、教員養成の段階で、学級経営に関する資質能力形成に資するカリキュラムをどのように構築することができるのかについて他科目との関連など検討していきたい。

[参考文献]

- 鹿児島大学教育学部特別教育研究経費事業「平成20年度中間報告書」
- 鹿児島大学教育学部特別教育研究経費事業「平成21年度報告書」

(添付資料)

(実施日 平成23年2月3日)

教師としての資質能力に関する自己診断(実践研究Ⅱ)

(学校教育・特別支援教育) 課程() 学科・専修() 年
 名 前() 希望する校種(小、中、高、特支)・教科()

◎ 現在の自分の状況について、事前診断と比較して4段階で自己評価してください。

1 自分の職務遂行や資質能力の改善・向上に関すること

① 解決すべき課題に直面した時に、積極的に情報収集したり課題を分析したりするなど、課題解決の方策を見出すことに努力することができますか。

イ 取組の進捗や達成の状況を確認したり、必要に応じて修正を図ったりして、目的の達成に向けた努力をすることができますか。

ウ 取組についての評価をおこなうことができず、果敢も欠いたステップとするなど、よりよいものを目指していくことを大切にできませんか。

2 児童生徒理解や学級経営等に関すること

① 児童生徒理解

ア 発達段階など児童生徒理解の基本的な考え方に基いて、一人一人の気質や特性などを理解することができますか。

イ 社会状況や時代の変化に伴う新たな課題や子どもの変化について、積極的に捉えようとしていますか。

ウ 児童生徒の現在及び将来の自己実現を図るための課題を見出し、個に応じた具体的な指導事項(例：基本的な生活習慣の確立など)を設定することができますか。

② 児童生徒への的確な指導・態度

ア 明るくやさしい声や丁寧なコミュニケーションを図るうえでの基本的な事柄を踏まえて、子どもたちに接することができますか。

イ 受容的な態度や公平性のある態度など、子どもたちが尊重に感謝できたり、信頼関係を築いたりできる態度がとれますか。

ウ 子どもを一人の人格として大切にしながら、発達段階に応じて指導のねらいに即した説話や指導などを行うことができますか。

エ 生徒指導や教育相談、いじめ・不登校についての対応などの基本的な考え方を理解していますか。

③ 計画的な指導・学級経営

ア 学級経営とは何か、学級経営案はどのような手順で書くのかなどの基本的な事柄を理解していますか。

イ 学校・学年の教育方針や子どもの実態などを踏まえて、学級づくりの方針や重点課題、具体策を構想することができますか。

ウ 集団の協働を通して一人一人が成長できるようにするために、集団のルールはどうか、役割と活動の細をどのように定めるべきかなど具体的な手立てを考案することができますか。

エ 学級づくりの方針や指導のあり方について、子どもたちをはじめ、他の教職員や保護者にも分かるように説明する自信がありますか。

3 教科等の指導力に関すること

① 指導内容に関する基本的理解

ア 学習指導要領を読んで、担当教科をはじめ、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの目標や内容を読み理解することができますか。

イ 教科書や資料などの教材分析をして、授業の目標や指導すべき内容、指導方法などを考えることができますか。

② 具体的な指導方法や指導技術に関する基本的理解

ア 授業の目標を達成するために、導入・展開・終末の基本的な指導過程に即した一連の学習指導要領を生成することができますか。

イ 興味・関心を高め、分りやすい学習するために、教材教員や視聴覚機器などを活用することができますか。

ウ へき地小規模校の少人数級や複式学級での、学習指導の工夫や効果について理解していますか。

③ 授業設計や評価に関する基本的理解

ア 目標を達成した具体的な子どもの姿を「評価規準」として設定し、計画的に評価することができますか。

イ 特別支援教育の観点も踏まえて、一人一人の特性を把握し、指導計画や指導方法、教材教具等の工夫を活かすことができますか。

4 職業感や教育的愛情、社会性や人間関係力等に関すること

① 教員としての職業感や情熱的な覚悟

ア 教職は子どもに人格形成や社会性に重要な影響を及ぼす専門職であることを自覚していますか。

イ 誠実、公平かつ責任感を持って子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識を持つて物事に当たることができますか。

ウ 教育活動を行う上での安全管理、健康管理への配慮、事故防止及び緊急時の対応の仕方などについて理解していますか。

エ 教員の使命や職務に関する法的な規定(身分、勤務など)を理解していますか。

オ 全体の奉仕者としての社会的信頼を確立するため、高い倫理観が常に求められる職業であることを理解していますか。

② 他者との連携や協働など

ア あいさつや態度、言葉遣い、同僚や保護者への接し方など、社会人としての基本な接遇、マナー等は身に付いていますか。

イ 学校という組織の一員としての自覚をもち、同僚の声に耳を傾け、理解や協力を得ながら、職務を遂行することの大切さを理解していますか。

ウ 保護者や地域の関係者の声に耳を傾け、連携・協力しながら課題に対処することの大切さを理解していますか。

G1 改めて、今、「学級経営って何?」と質問された時、あなたの説明を欄に書いてください。

G2 4月から希望校種の学級担任をすと仮定した場合、どんな学級にしたいと思いますか?

G3 学級担任を担う際に、自己の課題としてもっとどんな力量を高めなければならないと思いますか。

G4 本講義の内容でもっと学びたい内容、あるいは教れたいと思う内容はありますか?

H23・2・3

H22年度「教職実践研究Ⅱ」自己診断結果の集計

※ 上段(H22.10.14)実施分 下段(H23. 2. 3)実施分

観点	1 職務遂行、資質能力の向上				2 児童生徒理解、学級経営				3 教科等の指導力				4 職業感、教育的愛情				平均												
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4													
具体的項目	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	2.89								
	ア	イ	ウ	評価	①ア	①イ	①ウ	②ア	②イ	②ウ	③ア	③イ	③ウ	③ア	③イ	③ウ	①ア	①イ	①ウ	②ア									
各項目数値平均	3.75	4	3.5	3	2.5	3.25	3.5	2.75	2.75	1.5	1.75	2	1.75	2.75	3.25	2.75	2.5	2	2.25	2	4	3.75	2.5	3.25	3.25	3.75	3.5	2.89	
	3.75	4	4	3.25	4	3.25	3.75	3.75	3	3	4	3.75	3.5	3	3.5	3.75	4	3.25	3	3.25	4	4	3.5	4	3.75	4	3.62		
増減	0	0	0.5	0.25	1	0.75	0.5	0.25	0.25	0.25	2	1.5	1.25	0.75	0.25	1	1.5	1.25	0.75	1.25	0	0.25	1	0.25	0.75	0.5	0.25	0.5	0.73

事後